

心に賛成して下さるこそ信じます。数日前、私は Cape の国立天文臺長から愉快なる手紙を貰ひましたが、其れによりますと、此の賞牌授與の事が「Capeタイムス」紙に載せられた日、氏は此は此の評議員會の決議に大變喜ばれた由であります。臺長の言によれば、氏は又南アフリカに於いて、彗星搜索に従事する他の人々を個人的に獎勵まして、間接に此の人々の發見成功を助けた由であります。ところが、こゝに特に遺憾なことは、Reid 氏が目下病氣重態でありまして甚だしく苦痛を味はれて居ります。「此の賞牌のニュースが氏をひざく喜ばせました」と、臺長は書いて居られます。

『Jackson 博士よ、私は今此の賞牌を貴君に渡し、Reid 氏へよろしく御傳へを願ひますと共に、氏の業績に對する吾々の賞讃の意を病氣の治癒と健康の回復のための吾々の希望を氏に傳へ下さることを望みます。』

(拍手)

去る六月三日の月蝕観測

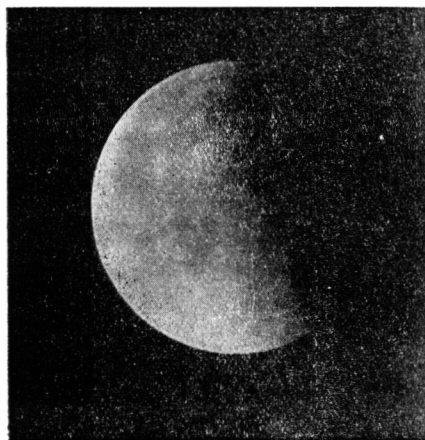
六月三日の皆既月蝕を観測するため、京都大學天文臺では其の前々日に打ち合はせ會を開いた。そして下の如く部署を定めた。――

三十センチ機	(1) 30センチ大レンズで眼視及び寫眞観測	中村 要	}時計70
	(2) 16センチ反射鏡で寫眞撮影	渡邊敏夫	
十八センチ機	(3) 18センチ大レンズで眼視観測	上田 穰	}時計75
	(4) 6センチ・ファイナダーで眼視観測	森川光郎	
三十三センチ機	(5) 33センチ反射鏡で眼視観測	柴田淑次	}時計460
二十五センチ機	(6) 25センチ反射鏡	}寫眞撮影	}稲葉通義
	(7) 5センチ寫眞機		
中村十六センチ機	(8) 16センチ反射鏡で眼視観測	上 島 昇	}時計59
	(9) 5センチ屈折鏡で眼視観測	福本正人	
小山十三センチ機	(10) 13センチ反射鏡で眼視観測	小山秋雄	
十センチ機	(11) 10センチ赤道儀で眼視観測	伊藤誹語	}山本一清
山本十センチ機	(12) 10センチ屈折機で眼視観測		

尙ほ、當日迄は伊藤氏が時計の比較を擔任し、又森川小山兩氏は微光星の掩蔽用の星圖を作つた。すべて眼視観測者は、月球と地影との接觸時刻を観測するこゝに、微星の掩蔽時刻を観測するこゝに定めた。又、寫眞観測者は或は月にガイドし、或は星にガイドして、いろいろの月蝕現象を撮影するこゝに申し合はせた。又、天文臺内の上記以外の諸君は其れ其れの班に分れて時計の監督をやつて下さる筈と決めた。

ところが愈々當日は朝から曇天で青空が少しも見えず、「之では駄目だ」と一同皆悲觀してゐた。しかるに午後六時頃になつて、空の雲が急に淡くなり天頂には青空が見え始めると共に、西の地平線は夕焼のために美しく染められたので、観測者たちは俄かに元氣を回復し、もはや間もなく起る月蝕がキツミ見えるに違ひないと思ひ立つて、望遠鏡の調節や寫眞乾板の準備なされた。

蝕は7時17分6に部分食が始まる筈であつたが、其の頃、東山あたり一帯に濃い雲が重なつてゐて何物も見えず、只天頂に一等星が僅か見えてゐた。その後暫くしても雲は急に去ると思はれなかつたが、8時頃になつて突然に月のボンヤリした光が山の上の雲の間から見えた。しかし雲が濃くて、望遠鏡で見てもふちははつきりしない。九時の食甚の頃から月は高く、雲も淡らいだけれど、やはり掩蔽を見るほど明瞭にならなかつた。そして絶えず大小の雲片が月西を往來した。



結局、第二觸と第三觸との観測以外に眼視観測は不可能であつた。只、雲の隙間を利用して、中村稻葉兩君が見事な寫眞を幾枚か撮つた。こゝに掲げたのは其の中の一つである。